

平成二十六年 度 九州歯科大学歯学部 大学  
院入学式

歯学科第六十六回、口腔保健学科第五回、大学  
院第四十九回入学式

式辞

九州歯科大学が創立百周年を迎えるこの良  
き年に、あわせて桜の咲き誇る本日、希望に満  
ちあふれる新入生の皆さんを迎えることができ  
き、この上もない喜びを感じております。歯学  
部歯学科、口腔保健学科および大学院歯学研  
究科に入学した皆さんに対して、九州歯科大学の  
教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へ  
という言葉をご贈らせていただきます。また、これ  
までの成長を見守ってこられた保護者の皆さま  
も、さぞかしお喜びのことと存じます。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事をはじ  
め、かくも多数のご来賓のご臨席を賜り、厚く  
御礼申し上げます。

九州歯科大学は、我が国において、歯学部を  
設置する二十九の大学の中で、唯一の公立大学  
として、百年という長い歴史と伝統、ならびに  
輝かしい実績を持って、歯科医学および歯科医

療の発展に大きく貢献してまいりました。

本学は公立大学法人として、平成二十四年度からの、第2期中期計画のもとで、さらなる発展を目指して継続的な教育改編を進めています。この中期計画では、その前文に、「口腔医学の総合大学」を謳い上げ、歯学教育の充実を中期計画の主軸に掲げています。本日、入学した両学科の学生諸君が、このような環境のもとで教育を受け、高い志をもった歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをお約束します。

さて、現在、九州歯科大学では、専門的医療人、すなわちプロフェッションの養成を重要視した教育を行っています。二十一世紀に入り、これまで、態度教育あるいは情意教育といわれていたものがプロフェッショナルリズム教育と表現されるようになりました。本学でも、先に述べた今期中期計画で、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の養成を重要視しています。

このようなプロフェッショナルリズム教育を通じ、高い倫理観に裏打ちされた専門的能力、ヒューマニズムの精神、さらには、自己の利益

よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人養成を第一義に考え、優秀な人材を社会に輩出してまいります。

このような話しをしたうえで、本日、入学した新入生の皆さんにお願いです。諸君は、生涯歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本学に入学したと信じています。

これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した、すなわち自律した大学生活を送り、本当の意味でのプロフェッショナルとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に自分の日々の勉強に励んで下さい。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。平成二十四年度、九州歯科大学が代表校となり、医学・歯学・工学連携プロジェクトが文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」に選定されました。この教育推進事業を進めるにあたり、北九州地区にある九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学の四大学が連携協定を結び、我が国で初めての医歯工連携教育体制が構築されました。

現在、単位互換制度を確立し、共同研究を重

層的に展開して、新たな学際領域を開拓する基盤が出来上がりました。九州歯科大学としては、この医歯工連携を通じて、より充実した研究環境の整備に努め、二十一世紀の歯科医学を背負う大学院生諸君の研究が、これまで以上に幅広いものとなるよう、支援していきます。

九州歯科大学は、平成二十六年五月十一日の創立記念日をもって創立百周年を迎えます。それに先んじて、平成二十五年一月一日に、伝統ある九州歯科大学の英語表記を Kyushu Dental College から Kyushu Dental University に変更しました。その後、ミャンマーの二つの歯科大学、台湾の高雄医科大学、香港大学、タイのシーナカリンウイロート大学、インドのシュリ・ラーマチャンドラ大学、フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学、あわせて八大学の歯学部と教育連携協定を結び、今後、学生と教員の連携を深める海外活動を開始します。大学がこのような連携事業を充実させ、今後、多くの学部学生、大学院生が海外教育連携校での研修や海外での生活を経験していくなかで、グローバルな視野を持った歯科医療人になると信じております。

本学の歯学部および大学院に入学された皆さんは、今日から長い歴史を持つ九州歯科大学の一員として研鑽を重ね、次世代に向けて新たな伝統を作っていくこととなります。その道は決して平坦なものばかりではありません。そのことを自覚したうえで、輝かしい未来が皆さんを待っているということを感じて、充実した学生生活を送ることを心から願っています。

むすびに、先人の言葉を伝えます。入学生全員に、「無知は罪悪である。その無知な状態から少しでも逃れて、物事を理解しよう、自然や社会に関連する科学、周囲の人や自分自身を理解しようとするのが知性なのだ」さらに、この厳しい言葉の中にある無知という呪縛から脱却する行動規範として、ドイツを代表する文豪であるゲーテの「くよくよするな。働け。区切って、限って、形作って、成就せよ」という名言を紹介し、明日からの大学での学習、研究に、前向きに、そして、自ら考え、すべてのことに主体的に取り組む学生となることを心から念願して、私の式辞といたします。

平成二十六年四月二日

九州歯科大学

学長 西原 達次